

宮崎学園新聞

2025年
四月第二号宮崎学園
新聞部発行

掲示許可

マラウイの人々を笑顔に

国際支援に取り組むインターアクト部

三月二十五日、高校生たちがSDGsの達成に向けたアクションプランを考える「SDGs QUEST みらい甲子園」の宮崎県大会のファイナルセレモニーがMRTIcoダイヤモンドホールで開催された。県内百二十三チームの中から十二チームがファイナリストに選ばれ、本校インターアクト部の姿もその中に入った。この大会はその後MRTIco宮崎放送にて「SDGs QUEST みらい甲子園 宮崎県大会 きみが世界を変える時!」というタイトルで放送され、県民がSDGsの取り組みの重要性を再認識するきっかけとなった。



▲賞状を手にして記念撮影する部員たち。

本校インターアクト部が共同支援をしているマラウイ共和国はアフリカ大陸南東に位置しており、人口の約八割が農業に従事する農業国である。マラウイでは、性別役割分業意識が未だ強く根付いており、賃金の不平等などの男女格差が問題視されている。加えて、世界最貧国の一つとされており、人口の約七割が一日一ドル以下の貧しい生活を送っている。インターアクト部はそのような現状を少しでも改善するため、現地の女性が作ったバッグなどを県内各地のイベントで販売している。その利益をマラウイに送り、女性の経済的自立を支援すること、貧困解決に貢献することを目指している。また、今回大会では、ファイナリス

ト選出特典として、部員全員に大阪・関西万博のチケットが進呈された。部長の村中秀真さん(3)は、「この機会にマラウイ共和国のパビリオンを見学したい。」と語った。同部はその他にも校外の団体と提携してさまざまなボランティア活動を行っており、現在も部員を募集している。問い合わせは伊東望先生、または三年七組村中秀真さんまで。(川越・児玉)



▲大会メインビジュアル。



▲開館を喜ぶ生徒会メンバーたち。

始業式が行われ、在校生が新入生よりも一足早く一学期をスタートさせた四月八日、南校舎の中庭に新しく自習室が完成した。昨年の十二月から続いていた工事が完了し、使用可能となった。自習室の名前は公募により集まった中から選ばれ、「翠星館」に決定した。同日の放課後、翠星館入り口でテープカットが行われ、押方校長先生が「宮学生の新たな学びの拠点として欲しい」と語った。エアコンを完備した室内は四十四の学習机を備えている。全ての机に間仕切りがあるため、生徒たちは自分の勉強に集中することができる。履き物を靴箱に入れて室内に入り、使いたい机の番号を記した札を裏返して使用する。平日は下校時刻まで、休日は九時から十七時まで使用可能だ。夏休

自習室「翠星館」完成



▲館内の様子。



▲座席番号の書かれた札を裏返して使用する。

みなどの学校閉鎖期間や自宅学習目には使用できない。館内での食事や、私語は禁止となっている。もし自宅で勉強に集中できないと悩んでいるなら、一度利用してみるのはどうだろうか。(伊東)